

秋田ファイブワン工業株式会社

秋田市八橋字下八橋191-29

最新CAM・ステッチミシンの導入により縫製加工における高付加価値製品の生産性向上と多能工育成を実現

【事業計画名】設備投資及び多能工育成による受注対応力向上と小ロット製品の生産拡大



導入した自動裁断機



ステッチミシンによる飾りステッチの例

取り組みの経緯

秋田ファイブワン工業は大手アパレルや百貨店、有名デザイナーズブランドの高級スーツ、ジャケット、コート、カジュアルなどを幅広く製造している。100社以上になるこれまでの取引先は個性的なブランドが多く、最先端の素材やデザインを好む各ブランドの要望を実現するなかで、技術力に磨きをかけてきた。

海外生産ブームの中でも、国内での生産にこだわり、培ってきたコスト競争力で高級ブランドからの小ロット、多品種の加工依頼は増加傾向にある。サンプルや50枚以下の小ロット製作、ファッション性の高いステッチワークが求められた場合でも、速やかに加工できる体制をつくるとともに、多能工の育成により中国などの海外工場では実現できない高品質品の生産性をさらに向上させるため、本事業に取り組むこととした。

実施内容

小ロットや格子柄の生地裁断のスピードアップと特殊ミシン導入による多能工化を進めるため、自動裁断機、特殊ステッチミシンを導入した。

自動裁断機にはプロジェクターとカメラの設置で正確な柄合わせとスピーディな裁断を可能とした。その結果、同社では高額な生地の精密な一枚裁断により、必要な生地の長さとその見積りの精度を高めることで、コスト削減にも寄与できた。

メンズ・レディースの製品企画の多様化により、ファッション性の高い製品には高度な飾りステッチが求められるケースが多い。特殊ステッチミシンを使用することで、手縫いのような高級感を実現しながらも、高速対応が可能となり、多くの飾りステッチが入れられることで付加価値が高まった。また、多能工の育成にもつながり、多品種生産の効率向上となっている。

事業の成果

サンプル、先行見本の裁断は大幅にスピードアップした(120分/人→20分/人)。また、特殊ステッチミシンの導入により、製品の付加価値が高まったことで、取引先からの受注枠も広がった。設備導入は高付加価値製品の受注増や新たな多能工の育成につながり、雇用の拡大を促している。

佐賀社長が生き残りのために進めてきたのが「多能工化」。大規模工場では作業が細分化され、1人が縫うのは袖の一部分だけというケースが多い。定期開催する小集団活動で技術の向上をはかることで、大量生産にも少量生産にも対応できることが同社の強みとなっている。



導入したステッチミシン



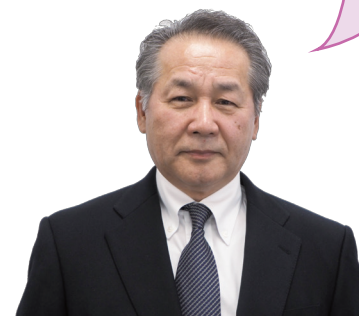
天井が高く、明るく開放感のある工場



高級ジャケットの製品例

当社は3年前から外国人研修生の受け入れを止めています。商品は平均150着ロット・1.5日で変わるため、さらに生産性を上げるにはメイドインジャパンにこだわり、コミュニケーションの徹底によるイノベーションが必要と判断したためです。

当社が目指すのは「ヒューマンファクトリー」です。社員一人ひとりがプライドを持ってものづくりに真摯に向き合うからこそ、お取引先様から信頼が得られると考えます。職人を大切にしなければ本当に良いものを作れなくなるという思いをもって、今後も上質の服を提供していきます。



代表取締役
佐賀 善美さん

今後の活動予定

ミシン速度にまでこだわら縫製品質の高さに惚れ込み、一例として大手百貨店「高島屋」はクールビズ商戦の目玉商品であるジャケットの縫製を同社に発注している。バイヤーは「大量生産を前提としていないため、熟練した多能工職人のレベルが高い」と評している。

技術力や細部へのこだわりに加え、縫製を担う女性社員が働きやすい環境整備にも注力する。従業員の8割が女性で、出産後の復帰を積極的に奨励するほか、社員一人ひとりの誕生日を祝うなどアットホームな雰囲気づくりにも心を砕く。また、次世代経営者に「ものづくりの技術集団」として社員を引き継ぐことを心にかけている。



秋田ファイブワン工業株式会社

代表者	代表取締役 佐賀 善美
設立	昭和50年2月
資本金	8,000万円
従業員数	105名
業種	繊維製品加工販売業
TEL	018-862-5141
FAX	018-862-5288
URL	a-fiveone.co.jp